地域と学校　その15

校舎建て替えが完了

小松 尚（名古屋大学大学院環境学研究科准教授）

8月6日の学校登校日に私も子どもたちの顔を見たくて、石小へ出かけました。夏休みはまだ半ば。真っ黒な子もいれば、そうでない子も。この号がお手元に届く頃には夏休みも終わり、子どもたちの2学期が始まっています。どんな夏休みを過ごしたのでしょう。

さて、建設委員会は最終コーナーに入り、ゴールが見えてきました。

現状を活かした屋外環境整備

第42回建設委員会（2005年11月）の冒頭、委員長Otさんが「学校へ行ってもいいんかな?」という声を地域で聞いたという話を紹介されました。既に旧校舎のお別れの会も終わった時期でしたが、このような声に、Otさんとしてはまだまだ広報が足らないと感じたようです。イベント時以上に日常的な来訪をどう受け止めるか。屋外環境整備は、その大きな鍵を握っているといって過言ではないでしょう。

この日は、これまでの意見交換をふまえて、設計事務所からたたき台の案が提示されました。基本的には、現状を活かしながら、木の植え方や土の盛り方で工夫をした案です。

この案に対しては様々な意見が飛び交いました。特に管理を心配する意見が多数出てきました。「人工的につくった自然は管理が大変」「現状でも草刈りが大変なのに、これ以上緑を増やすのは気が重い」などなど。でも、「これまでも地域の手づくりだった。今後も先生任せではなく、地域でなんとかしたい」という声も。旧校舎の造園を地域の手で実現した世代から次の世代へ、その思いが伝えられていることを感じさせる一言でした。「最初から全部つくるのではなく、少しずつでいい」という意見もあり、時間をかけてつくり上げていこうとする意欲も感じられました。

一方、「現状の木は全部残せるの?」とか「二宮金次郎像の周りはそのまま残したいな」といった、学校の記憶や思い出に関わる碑や樹木に対する意見もありました。そこで、次回はセミ公開ワークショップとして、竣工間近の新しい体育館とプールの見学会とともに、現状の校庭を見て回り、残したいものを確認することになりました。

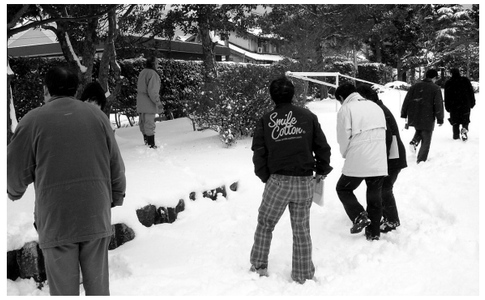
大雪の中で現地確認

12月18日に開催された第43回建設委員会。この日は名古屋でも昼間から雪が舞う寒い日でした。車はやめて電車で石榑に向かうと、鈴鹿山脈の上には黒い雲が低く立ちこめています。大安駅に降り立つと、そこは一面の銀世界。なんとか石榑（いしぐれ）小学校までたどり着くと、既に20cmくらいの積雪がありました。「昔は膝まで積もることはよくあったよ」と委員長のOtさん。大雪のため、体育館とプールの見学会は中止し、校庭を巡って、残していきたいものを確認しました。

二宮金次郎像や尋常小学校時代や旧中学校の門扉を残したいという意見はもちろんのこと、サザンカの生け垣や各種の記念樹を残したいという声が複数ありました。特に、南の道路脇のイチョウは新たに設置する歩道と干渉し、残せるかどうか懸案なのですが、「今年の紅葉もきれいだった。残したい」「イチョウは足下の石垣をつくる前からあった。なくなると地域の人は悲しむ」という意見が聞かれました。加えて、校舎北側の道路整備で何本かの桜の木を切らざるを得ないのですが、これにも「残して欲しいと言われている」と地域の声を代弁する意見が発せられました。

さらに、「旧校舎がここにあったという証がほしい」という意見も。これには、旧校舎の四隅に何かを残したらいいのでは、という提案も併せてありました。

昔の思い出にまつわる話題になると、「あの頃は生け垣が低くて、外がよく見えた」「あそこでこんな遊びをした」など、昔話に花が咲くものです。そんな話を世代間でできる建設委員の方々を、うらやましく思い、またこうして語り継がれているのだと知るひとときでした。



雪の中での校庭調査
長い建設委員会にはこういう日もあります。
でも皆さん、どこに何があるかはよくご存じです。

ビオトープはいったん見送り

年が明けて2006年の1月に開催された第44回建設委員会では、体育館とプールの見学会を行い、3月12日に建設委員会主催で完成式を行うことが報告されました。体育館とプールの完成式の様子は既に（その11）でお話ししましたが、初めて入ることができた体育館で子どもたちがのびのびと遊ぶイベントが用意されるとのこと。

屋外環境の整備に関する議論も継続していますが、懸案だったビオトープは、当面見送ることが第44回建設委員会で確認されました。ビオトープだけでなく敷地全体の樹木等の管理の問題があること、新しい校舎ができて1年が過ぎましたが、校舎の維持管理について事前にいろいろ考えていたものの、まだ手探り状態のため、ビオトープまで手に負えないというのが理由でした。ただ、これに強く反対する委員もおらず、ビオトープ問題は各委員の心の中で既に解決済みだったように感じました。

第45回建設委員会では、残念ながら、北側の桜は道路の拡幅により伐採せざるを得ないとの報告がありました。皆さん、致し方ないかという表情でしたが、その代わりに伸び伸びと生育できる場所に桜の木を植えようということになりました。

5年目、そして最終年を迎えた建設委員会

2006年の2月末に体育館とプールが竣工し、完成祝賀式が3月12日に開催されました。体育館の広さを活かし、子どもたちがはしゃげる遊びやスポーツ企画が行われました。その反省会を兼ねた建設委員会（第47回）では、来年度はいよいよ建て替えの最終年であり、再来年度は創設100周年も迎えるので、自治会や老人会との連携強化、学校事業との連携、日曜日開放のあり方など、地に足が着いた動きにしていこうという意見が交わされました。

体育館とプールの竣工式
体育館で遊び初め。紙飛行機の作り方を教えてもらってみんなで飛ばしました。
数百の紙飛行機が真新しい体育館の中を飛び交いました。

そして2006年度に入り、建設委員会も5年目。最終年になりました。今年度は夏から秋にかけて屋外環境整備の工事が行われ、晩秋の頃には新しい校庭が完成します。これができると、予定していた建て替え計画はひとまず終了することになります。

5年目最初の建設委員会（第48回）で、校長先生が「工事のある間は設計事務所と一緒に進めてきたが、少しずつ子どもたちや地域が主体になって、長期的に取り組んでいかないといけない」という発言をされました。この発言の背景には、その13でもお話ししましたが石榑小学校は2005年度から文部科学省が進めるコミュニティ・スクールの研究指定校になり、学校のあり方を一緒に考え行動する「石榑の里共育委員会」が設置されて、新校舎をベースにした取り組みを積み重ねているということがありました。コミュニティ・スクールについては次号以降で詳しくお話しするつもりですが、この「共育委員会」は2007年度から石榑小学校が公式にコミュニティ・スクールとして発足した時には「学校運営協議会」という公式の組織になります。その足がかりを今年中につくり上げなければという、少々の焦りも感じていた校長先生のお気持ちを伝える言葉だったと思います。いよいよ新校舎建設のゴールラインと地域と学校の協働運営のスタートラインが見えてきた、という時期でした。

イチョウの木
石小の秋をあざやかな黄色の葉が象徴します。
（白黒なのが残念!）

第49回建設委員会では学窓会（同窓会）と育友会（PTA）から寄贈されてきた歴代の石の配置や植樹する樹木を確認し、第50回では現地見学をしながら再確認をしました。屋外環境整備の工事は順調に進み、2006年11月17日に無事竣工し、新校舎の整備に関する全ての工事が終了しました。翌18日に開催された石榑の里まつり「石榑大好き、1000人集合」がお披露目の機会になり、しばらく振りの校庭に子どもたちは飛び出していきました。

皆、これで終わったと思っていました。しかし、まだ一つ仕事が残っていました。懸案のイチョウ問題です。それは、学校の屋外環境整備にあわせて運動場の南側の歩道の整備も一緒に行うことになっていたのですが、イチョウの木が歩道に半分はみ出して立っているのです。

秋にはこの通りのシンボルになるイチョウの木。でも、残すとそこだけ歩道が狭くなってしまいます。会議室で丸イスを幹に見立てて、原寸で歩道の幅を確認しました。でも、最初から皆さんの意見は同じだと私は思っていました。「切らずに残そう!」ということで一件落着。こうして長かった建設委員会も終わりの時期を迎えました。

完成したお山広場
毎年1回、地域総出で手入れをしています。今年は8月17日に行われました。

［訂正］前号（その14）2頁目の最終段落で、シイの木の合成写真について紹介しました。記事の中では採用されなかったとありますが、シイの木については実際に若木1本が植えられました。この場を借りて訂正し、Isさんはじめ関係の皆様にお詫び申し上げます。